



(県本庁舎裏玄関のムクゲ)

ムクゲ（木槿）

本格的な夏の暑さとともに、白、薄紫、紅紫などの色をしたムクゲの花は咲き始め、秋風の立つ頃まで長く咲き続けます。

中国が原産で、日本には平安時代に伝えられたとされており、語源は、中国名の「木槿」をモクゲと読んだものが転じたものとされています。

一つ一つの花は、朝開いて夕方にはしぼんでしまう一日花ですが、炎天下に次々とつぼみが開き、花の生命のはかなさと生命力の強さを教えてくれます。「槿花一日の榮」、「槿花一朝の夢」という格言は、このムクゲの花の習性から栄華や物のはかなさをムクゲの花にたとえたものです。

「はらはらと雀飛び来る木槿垣

ふと見ればすずし白き花二つ」

北原白秋